

## 平成30年度 呉市復興計画検討委員会 第1回会議摘録

1 日 時 平成30年10月26日（金）10時～11時45分

2 場 所 呉市役所本庁舎 752～754会議室

### 3 概要・骨子

10:00

#### 【市長挨拶】

呉市長の新原でございます。

本日、皆様におかれましては、貴重な時間を割いてご出席いただき、ありがとうございます。

この度の7月の豪雨災害から、4ヶ月近くが経過しました。

あらためまして、豪雨災害の犠牲となられました方々に対しまして、哀悼の意を表しますとともに、被災された多くの方々に対し、心よりお見舞い申し上げます。

また、本日ご出席の皆様方におかれましては、さまざまな形で復旧・復興に向けてご尽力をいただいております。敬意を表します。

今回の災害では、人命救助、避難所等での被災者支援、断水時における給水支援、また災害により寸断された交通網等の復旧、廃棄物や土砂の撤去などで、国、県をはじめ、多くの皆様に助けていただきました。

こうしたご支援をいただくとともに、被災者のニーズに応じた各種ボランティア活動、また、個人または団体からの支援金や支援物資の提供など、呉市内はもとより全国各地の多くの方からご支援をいただきました。

こうした中、市民の皆様が被災前の当たり前の生活を取り戻すとともに、呉市が災害に強い幸せで魅力的な都市として復活・再生することができるよう、被災者の方一人ひとりに寄り添った生活支援や、インフラの復旧・強靱化、中小企業・観光・農水産業への支援などの取組を計画的に進めなければなりません。

そのために、呉市の復旧・復興に向けた復興計画を策定するために本委員会を開催し、委員の皆様幅広い知識・ご経験などから、様々なご意見を頂戴し、その上で広く市民の皆様からも意見をうかがって、計画を策定してまいります。

復興計画が実情に沿った本当に役立つ計画となるよう、ご意見をいただきますようお願いいたします。

#### 【委員自己紹介】省略（資料1）

#### 【開催要綱等】

開催要綱等について事務局から説明（資料2）

#### 【座長・副座長の選出】

互選により、座長に 羽藤 英二委員を選出  
副座長に 中本 克州委員を選出

10:20

**【議題 1】**

「呉市の被災状況について」事務局から説明（資料 3）

※事務局からの説明後、

東京大学復興デザイン研究体から、呉市の被災状況について説明

**委員からの主な意見は次のとおり**

- 復興計画を検討していく上で、災害の検証は不可欠である。呉市の災害の特徴や避難所の状況、亡くなった方はどのように被災し、亡くなられたのか、そういった検証を行うべきである。

10:55

**【議題 2】**

「呉市復興計画（仮称）策定に当たっての基本的な考え方について」事務局から説明（資料 4）

**【議題 3】**

「呉市復興計画検討委員会スケジュール（案）について」事務局から説明（資料 5）

**委員からの主な意見は次のとおり**

- スケジュールでは、計画の骨子が完成して、住民説明会を開催するようだが、住民説明会と骨子を同時並行で検討することで、スムーズに復興計画ができると考える。
- 事務局案の基本的な考え方で議論していけば良い。
- 観光業は、地域の魅力を売っていくものであり、観光業の復興は、災害を受けた地域住民が地域への誇りを取り戻す側面がある。また、呉市は、非常に魅力のある地域であり、市民がそれを再認識できるような形で議論していきたい。
- 取組の中で、急ぐものと時間を要するものを分けて検討した方が良い。
- 避難所への避難や防災教育については、まだ浸透していない。実際に避難した人は数%程度である。それを踏まえて、事前に避難してもらうのか、或いは、避難させるのか、前提や目的を明確にして検討すべきである。
- 各地域には、水害などに関する石碑があるが、見過ごされている。この点も検証すべきである。
- JRと道路が同時に3か月の間、遮断され、どうしようもない状態であった。まずは、3か月の間、道路が止まるような都市を改善するための交通インフラの整備が必要である。道路の建設も交通量だけではなく、災害で途切れない道路、或いは鉄道はどうあるべきかを、しっかりと考えていかなければならない。

- 復興計画は、呉市全体だけではなく、広島市や東広島市など、他地域との接続性も含めて検討していくべきである。
- 各地域のミクロの話と、全体的なネットワークといったマクロの話を加えて、特にマクロの話については、住民や各企業の意見を聞く必要がある。
- 今回の災害で、呉市は交通に弱いと全国に発信してしまった。それに対して、道路や鉄道の交通ネットワークの強化やバックアップ体制により、万全の体制であるということアピールしていくしかない。インフラの強化が復活・復興に不可欠である。
- ソフト面では、（呉市渋滞・交通対策チームによる）全国的にも注目された取組があったが、こうした取組が早く出来たのは、行政といろいろな関係機関との関係が構築されていたからと考える。日頃のソフト的な対応についても計画に書き込んでいただきたい。交通だけでなく様々な施策の中で必要である。
- 地域の話聞き、取りまとめたものを参考にして取り組まなければ、必要とされる計画にはならない。
- 制度的・財政的な制限を意識しすぎず、大胆に取り組むべきである。
- 今後は、ソフト面にも力を入れて、防災意識の向上に努める必要がある。そのため、復興計画を策定し、段階的に市民に意識を徹底していこうと考えている。
- 防災情報の収集・発信には、様々な情報ツールがあり、呉市として、どのような情報を収集し、発信するのかを検討し、次の災害に備えるためのソフト面での取組を計画に盛り込むべきである。
- 地区を細かくエリア分けし、ソフトを含め、どのように住んで行くかを考えていかなければならない。そうした場合、今回の豪雨災害で地域に何が起こったのかを把握するため、市民の意見をきめ細かく聞いていかなければならない。
- 復興計画の策定にあたっては、好事例も良いが、計画したが実現できなかった事例も参考になるのではないか。
- 非常時に使用できる井戸の場所を事前に把握しておくことが必要と感じた。また、被災された家の方々は、かなり無理をされ、心身ともに疲れている状況もあるので、メンタル面のサポートが必要である。
- 豪雨災害や土砂災害は、エネルギーを溜め込んで発生する地震とは異なり、いつ発生してもおかしくない。そうしたときに、死者が発生しないような超短期的なプランを、長期的なプランと併せて、検討していかなければならないと強く感じた。

11:45

【閉会】